



ZIZI-YAMA 2016つれづれ日記



1

2016/12/29

研究室の掃除を終えて
鴨川河畔をブラリ
比叡の山々は白く薄化粧
ユリカモメが「こんなときには、あれやろ？」
と誘いかけたので
では、一杯だけいつものハイボールパー

ああー、落ち着くね
いつものカウンター
まずは、どりあえずまずは
オリーブを着に山崎ハイボール

ふと気がつくと
アレっ！いつの間にか
複製版ハイボールにハムカツが
なんでやろと思っいたらビアまで
仕方ないジイジやな

もうこうなれば
心と身体も仕事納めの大掃除や
と、勝手な言い訳をして
自宅の大掃除は明日やー！

皆さんよいお年を！
今年も一年ありがとうございました



2016/12/26

2016年仕事納めの昼ご飯
何にしようかと

やはり
和の料理人の仕事の...
一汁九菜
大吟醸酒粕汁
自然薯のお漬け物
豚角煮とお大根炊いたん
京風だし巻き生姜あんかけ
鱈と旬の野菜
京都小松菜のお浸し
京都白菜の鶏そぼろかけ
京都産海老芋の唐揚げ
合鴨コース
北海道直送シャドークイーンのスラダ
はんなりとおばんざい風の仕上げ
さあ、大掃除
新しい年の迎への準備



2016/12/24

自分にクリスマスプレゼント
ライフワークの作業療法の言語化、最後の仕事閉じて
「精神障害と作業療法」新版の著者校正が始まり、表
紙(案)が決定。来年春の出版を目指して作業中です。

入院中心から地域生活中心へという動き、疾患構造
の変化などにより
大きく転換が迫られているわが国の精神保健において、
作業療法は何を担うのか
ひとの生活における目的と意味のある作業「生活行
為」を手段に
対象者の生活を支援するという作業療法の特性、治
療・支援構造、医療・保健・福祉、各領域での作業療
法の実践を示す？

疾患や障害の新たなとらえ方としてスペクトラムという視
点や高次脳機能障害の項目も追加
さらに、障害と受容、作業療法の原理など作業療法の
哲学的課題についても言及しました



精神障害と作業療法

病いを生きる、病いと生きる
精神認知系作業療法の理論と実践

新版

山根 寛



三輪書店

2016/12/14

一年の括りが始まって
何があるわけでもないのに
忙(せわ)しいデイケアの一日の終わり
参加者が帰り
プログラムの後片づけをしていると...
作品棚から声が聞こえたような
.....



何もないのに忙しいな
- - - 年の瀬やかな
あいつら懲りないね
また、女の子を
おい、ほらあの娘(こ) おまへの 隣の
- - - えっ、どの娘 ? どうしたの?
いや、ちょっとな
ハイハイ みんなそろって
集合写真だよー
作品棚の猫たちが話してる?
でも、そんな気がした。
まさかね!



2016/12/14

一年の括りが始まって
何があるわけでもないのに
忙(せわ)しいデイケアの一日の終わり
参加者が帰り
プログラムの後片づけをしていると...
作品棚から声が聞こえたような
.....



何もないのに忙しいな
- - - 年の瀬やかな
あいつら懲りないね
また、女の子を
おい、ほらあの娘(こ) おまへの 隣の
- - - えっ、どの娘 ? どうしたの?
いや、ちょっとな
ハイハイ みんなそろって
集合写真だよー
作品棚の猫たちが話してる?
でも、そんな気がした。
まさかね!



2016/12/3

退官という人生の括りの年の
一年の括りの月

「ごろうさま」「おめでどう」の席とは別に
自分へのお疲れさまのご褒美...
ちょっぴり奢って愛媛牛のコース
シェフの手さばきを見ながら
まずは食前酒、南予の香り爽やかな城川郷
ミディアムレアーに焼き上がった愛媛牛には
すっきり辛口食中酒、東予の小富士

♫は、えひめの米の山葵飯
ツツと鼻腔に抜ける山葵の辛味に
辛口小富士が、また相性がいい
デザートは柚子シャーベット

さあ、自分へのお疲れさまの括りを終えて
新たな年に
人生の最終回ステージに向けた
新たな括りの旅が始まる

「長い間ごろうさま」と、自分を誉めてみた



2016/11/26

今日の移動はジェット
プロペラ機より飛行高度が高く
眼下の風景もズームアウト
雲の上

まあ、それなら空から地域起こしと
ABASHIRI White Ale に新潟チップス
オレンジとコリアンダーが香る
爽やかなエールビール
炊きあげご飯のチップスが意外にマッチ

さあ、これで
体と脳の疲れが消えるかな？



2016/11/26

昨日早朝、大阪モルールで伊丹空港へ
ワンマン運転の運転手は女性
制服の着こなし
身のこなし

無理も無駄もない動作に
男性にはない細やかな気遣い
清々しさが
一本レールを走る

伊丹から松山へは
いつものプロペラ機
眼下に
冬を迎える瀬戸内の島と海

松山空港到着後は
100分2コマの集中講義

今日は再び
午前中100分2コマの集中講義後羽田へ
夜の打ち合わせ
明日は
認知症ライフパートナーの研修

杖と車イスのお世話になりながら移動すると
人の優しさと共に
バリアフリーのさまざまな問題が明らかに



2016/11/23

一週間前、突然、本当に突然
古傷の椎間板ヘルニアが
「お久しぶりだね。すっかり忘れてたやろ」
と、顔を出した
坐骨神経痛の痛み

いや～、その～、確かに～久しぶりだけど
もう付きまとわないで

歩くなど負荷がかかると
「どう？ 思い出すやろ、懐かしいやろ！」
まるで、DVが原因で離婚した元夫に
隠れ住んでいた居場所を突き止められたような

移動の度に車イスのお世話になり
世間の優しさに包まれていたのに

これは、坐骨神経痛の痛みが治まるまでと
自力移動のために
急遽購入したマツナガの軽量車椅子



2016/11/19

高知の事例検討会の作業療法士のみなさんが、ZIZIの厚生労働大臣表彰のお祝いをしてくださった。みんなで従来の壁を打ち破り、領域や職種、職域を越えた、精神認知機能障害のリハビリテーションと生活支援の臨床の質を高めよう！「ハイ！ポーズ！」



土佐リハの学生さんが変な集合写真を撮ってくれました。みんなの顔がZIZIの顔になっています。まるで、山根一族の集合写真みたい。



13

2016/11/15

植と食のある暮らしを
プランターのベランダ菜園
独立栄養を営む
静かな命の力

二十日大根が育った
小さなプランターに育った
今、採りたて

別なプランターにはパセリ
向こうにはアサツキ
少し大きなプランターには
まだ咲き残る朝顔をつかまえて
エンドウ豆がツルを伸ばしはじめた

季節の移り変わり
命の営みが
畑のない都会のベランダにも
そうだ
食卓のかいわれ大根と豆もやしの
水をかえておこう



2016/11/6

松山 伊丹 仙台と移動しながらの仕事が終わり
仙台からはやてのぞみ
新幹線を乗り継いで京都へ

忙中間あり
研修講演の前 空き時間がうまれ
仙台城本丸まで歩々
往復8000歩あまり

秋の恵みの栲の実三つ
ポケットに入れる
育ててみようかな

昔、祖父が集めて
祖母が丹念に 恵抜きをして
栲餅をつくってくれたのを思い出した

栲の実三つ
日暮れて帰る



2016/11/5

山頭火の匂に和して

蒼空をいだいて一人行く
松山 伊丹 仙台 空の旅

常勤の職を辞して
時間に追われる生き方を
終わりにしたのに
時おり
富山の薬売りよろしく
旅先から次の地へ
移らなければならない時がある

今回は
恩の返しに受けた仕事
まだあなたにしかできないことがあると
誉め殺されて受けた仕事



2016/11/4

何かもできないけど
何かしないと落ち着かないと
バラレな作業療法の場に
入院まもない人がおずおずと

あれ、やってみようかなと
しばらくして
どりかかったのはレザークラフト
初めてという

革の端切れに
何度か試しのスタンピング、色づけ
レザークラフトの染料は
扱いなれないと難しい

もうやめ、嫌だと声が出る
色斑、はみ出し、滲み
失敗から学ぶなんて
入院まもない亜急性期の人にはとんでもない
斑やはみ出しをそのまま活かす工夫を始める

不安そうに僕の手元を見ていたその人
ホッとするように目を合わす
失敗を失敗体験に終わらせないのが
作業をもちいる療法のプロフェッショナル



2016/10/29

国際統合リハビリテーション学会の特別講演で
浅草橋へ向かう途中
ドクターイエローに遭遇
何かいいことあるかな？

講演依頼を解釈して決めた演題は
「作業療法の寄りそい-病いを生きる、病と生きる人
と共に-」

どのような学会か
まずは
参加される皆さんとの交流から懇親会に

場所は浅草橋
顔見せが終わり
明日の講演の準備の前にZIZI一人飲み
この界限に多い
串焼きで一杯

試しのポテサラでお店チェック
まあまあOKなので
ホッピー
シロ
レバー
カシラ
トントロ
中トロ
そしてあれこれ

さあ、明日の講演プレゼンの確認



2016/10/28

朝夕の冷え込みがしつかり
こんな日の昼御飯は
やはりスープ卵ご飯
卵の黄身がひときわくつきり

そして、今日は地鳥のキモ煮があった
酒と薄口醤油と少しの味醂で
じっくり煮込まれ
ああ！昼でなければ
仕事がなければ
人肌の酒があれば言うことなし

午後の精神科作業療法の時間
寒くなってきたので
赤鬼にパンツをはかせた

そうだ帰りに
いつものハイボールバーに寄ろう
風が冷たい日だから



2016/10/23

昨日、認知症ライフパートナーの研修、今日、音楽療法士の皆さんの治療からい援助関係の講演と事例検討スーパービジョン。終わって、帰路の新幹線

ほっと一息ついて、新幹線の中で食事しました。寿司と軽井沢ビールと水割り



2016/10/13

バッカスや大物主大神や少彦名神など
酒の神々と親しくなつてからは
四季折々に
神事とまではいかないが
ああ、この季節がきたかと
神々に感謝しながら祀りごとがある

暑い盛りを乗り越えてふつくりと落ちついた
ひやおろしに身を溶かし
葉月の終わりにになると
あのラムレーズンのラムーが巷に顔を見せる
今年のできはどうかとうと聞き酒よろしく
スピリッツとのマリアージュ

今年の始まりは
白州12年との顔合わせ
ラム酒をたっぷり含み
チョコレートに身を包んだラムーが
白州の琥珀の水の中でゆつくりと帯をとく



2016/10/4

鴨川の河辺のすすきの
銀箔色が少し生成りに変わりはじめた
紅葉には早いけど桜のが数枚色づき
店頭には丹波の栗も顔を見せはじめ
秋は早足で近づいている

「おれは河原の枯れすすき
同じお前も枯れすすき
どうせ二人はこの世では
花の咲かない枯れすすき・・・」
なぜか野口雨情大正10年作詞「枯れすすき」が
オイルショックの1970年代半ばには
さくらと一郎の「昭和枯れすすき」が流行った

秋雨というよりスコールのような雨が上がって
雨雲がシロツメクサの葉でひと休み
水かさの増した川の流れを
アオサギとゴイサギが見つめていた
気がつけば、僕も一緒に川の流に



2016/9/27

台風一過で朝夕が涼しくなり
曼珠沙華の紅が濃くなった
宇治川は水かさを増して
滔々と流れる

ゆく川の流れるように
この国に作業を用いる療法が始まって
50年の歳月
一つ場が築かれつつあるが
忘れ去られる真実もある

これから新しい時代を担う者が
同じ轍を踏まないように
「五十年史」で表せなかった
この国の作業療法の大切なこぼれ話を
文字に残す作業を始めた

ホームページZIZI-YAMA WORLD2
資料コーナーに
「作業療法一歴史の検証と秘話」の項目を新設



2016/9/25

作業療法士協会設立50周年記念式典があり、世界大会を協同で開催したWFOT会長マリリン・パティンと再開。その記念祝賀会で、今の精神神経学会の会長が、1974年の作業療法点数化に反対したことに対して「あのときの点数化反対は、作業療法を誤解したものだ」と、学会としては初めて正式に公言された。生活療法で形骸化した仕事療法の影響であるが、日本の精神科領域の作業療法は、あの反対声明で大きな制限と不利益を被った。40数年が経つ。現会長に敬意を表すると共に、あまりに謝罪が遅すぎたという思いは拭えない。私の作業療法人生の多くのエネルギーがこの誤解の払拭に費やされた。



2016/9/20

引き出しの隅に忘れられていた朝顔の種
発芽期限が切れて二年
どうかな？ 咲くかな？
静な命の力にゆだねて蒔いてみた
芽がでて花を咲きはじめてのが五本
...最初の開花から二ヶ月あまり
毎朝70から80以上色とりどりの花が
夜明と共に開く
花ガラ摘みも毎月70から80
花ガラを摘んで
今日はいくつ咲いたかなと
咲いた花の数を数えるのが
僕の夜明けの習慣になった



2016/9/18

ふと気がつけば、もうすぐ今年も折り返し
今年後半は特別講義や研修が重なる
資料の作成を特急で開始したら
脳が加熱オーバーヒート

加熱した脳の静め
デフォルトモードネットワーク状態にと
古都最古の禅寺建仁寺に足をはこぶ

風神雷神の屏風
八面の雲龍図
創建八百年記念の双龍図
枯山水の庭

悠久の時の流に身を委ねると
加熱した脳が時の流に洗われる



2016/9/15

口述座長とシンポジウム司会で
札幌の町歩きを楽しむ時間もなく
慌ただしく作業療法学会会場を後にし
学会の余韻を楽しむ面々からのFBを
悔しく眺めながら
たまっていた日常業務を片づける

明日は音楽療法学会で仙台と
夕方早めに切り上げ
涼風に誘われるように鴨の川原を下る

枯れ草と間違えたのか
指に秋茜がとまった
ああ、そうだ
いつものハイボールバーに行く
こんな日は
シュワッと強炭酸のハイボールがいい



27

2016/9/6

今日は
脳神経リハビリテーション病院の
ライブスーパービジョンの日

初見の治療関係が成立困難な人...
同じく初見の
疲労感の訴えからリハビリ介入が
難しいという人
いずれも各一時間の関わりの中で
がんばりますに

個々の不安と思いに
寄り添ってみただけ
視点をその人の位置に置き換えてみただけ
でも、困難難しいとされるのは
専門職という意識が邪魔するからなのだろう

そんな事例の
ライブスーパービジョンを終えて
電車に乗ったら
なんだか風景が変わっていた
気がついたら秋味がそばに



2016/9/4

年に一度京都に集い
一泊二日で2事例
その社会的背景、治療的背景、個人的背景
そうしたすべてやの要素と関連を分析する
事例検討が今年も終わった
...広島からの参加の作業療法士から
ZIZIのカーブ恋心に
是非ともこれをとグッツ
突然カーブジジイに変身



2016/8/29

皆さんこんにちは
僕は先月生まれたZIZIの四番目の孫です
颯(そう)と言います
また男の子かと
ないがしろにされていたわけではありません...
高知で生まれて東京に移動とあわただしく
いいお顔の写真を撮ってもらう時間もなかったのです
誕生1ヶ月あまり
東京の家にも何とか落ち着いたので
ママに写真を撮ってもらって
寂しがっているZIZIに送ってもらいました
わが家は、お父さんとお兄ちゃんたち二人
三人の男の世話で
お母さんはてんてこ舞いです



2016/8/29

子ども孫も、みーんな男の子だったZIZI宅に、なんと、今日初めての女の子をコウノリが運んできました。次男の二人目の子どもで、名前は道琉(みちる)です。先月長男の三人目の子どもが生まれたので、5人目になります。上から吳(ごう)、黎(れい)、丈(じょう)、颯(そう)、道琉(みちる)。



2016/8/18

五山の送り火が終わり
油照りの京都の夏の朝
いつもの川浴いの道に
宵待草が一つ二つ

クズが秋を待ち焦がれたのか
絡み合い揺れ伸び
エノコログサが実を結び
ススキの仲間も穂を聞き
秋の香が漂い始めたのに
京都の油照りは
まだ続く
いつもの川浴いの道



2016/8/14

立秋の報せに
朝顔の花の数が日増に増える

年明けから続いたさまざまな仕事
ライフステージの括りに向かうあれこれ...
一つ一つ片づけた名残が
澱みのように
脳に溜まっている

そうだ
今年後半の段取りの整えに
非日常をと思いたち
六甲の山並みを
ブチ回峰

山頂付近まではロープウェイ
大阪湾 神戸港 瀬戸内の海を眼下に
動く禅のように回峰
六甲の山並みを ただ巡り歩く
秋を待つ青い毬栗

蟬時雨
一日歩々



2016/8/10

動的平衡
変わらないために、変わり続ける

朝顔が今日も咲いた
今日の朝顔は 昨日の朝顔ではない...
今日の朝顔は 今日一日
あすは 明日の花が咲く
変わらぬ種の命を繋ぐため
朝顔は 日々変わり続ける

自然の命の紡ぎに逆らって
人為的に作られた花は
一代限り
命の紡ぎも絶ちきれぬ
変わらないために、変わり続ける

自然の 営みの力に 身を委ねてみよう
変わろうとすることも
変わるまいとすることも
そこに他意があれば
すべては無理の 力がはたらく

いつの間にか、空は秋の装い



2016/8/8

何色の花が咲くかわからないまま
蒔いた朝顔
送り火が近づいたのを報せに
毎日開く花が増えている

こだわることで伸びてきた若さの日々も過ぎ
その若いこだわりの伸びで伸びたものが
今、蒔がりどよりの基になり
こだわらないことが伸びになる歳になって
何度目の夏だろう

この朝顔の種が来年も花を咲かせる



2016/8/3

ジャンジャンジャンと蝉時雨
五山送り火ももう十日あまり
青柿が膨らみはじめた

熟す前の青い実を
砕いて絞った柿澁液
和紙に塗って型染紙や雨合羽に
柿澁液は多用

市川團十郎の
歌舞伎「暫(しばらく)」の衣装は
柿澁染めで團十郎茶と称される



2016/8/2

土旺用事(とおうようじ) 暑中
京都の夏はねっとり暑さがまとわりつく
江戸の万能学者半賀源内が
夏に鰻が売れなくて難儀していた
知り合いの鰻屋に入れ知恵

土用の丑の日
夕暮れ時は
蒲焼きの煙が麦酒を誘う
夏バテには精がついていいかもしれぬが
昨今は手が出しにくいほど値がはり
源内憎し 憎し源内

そんな暑中
朝顔 morning glory が一輪
青い朝顔
「はかない恋」「固い絆」の花言葉
涼やかに 涼やかに 咲く
今日も夏日か



2016/7/27

若くて結核を患った父は
その治療で脳動脈硬化症になり
僕が30歳、作業療法養成校受験前日
脳梗塞で倒れた

父は
僕の作業療法学びの半ば
まだリハの知識や技術が身につく前
遊ってしまった
父57歳、僕が35歳

その作業療法の学びの道で
力動精神医学の師松井紀和先生と出会った
あれから35年
年に2回のグループダイナミクス研究会
各種セミナーや研修会
ゲームで
山中湖半で
信玄の隠し湯で

いつしか僕のなかで
先生は力道精神医学の恩から
愚痴を言う間もなく
孝行する間もなく遊ってしまった
父の代わりになり
さらに代わりから
new fatherに

その僕が67歳、先生86歳
前日、ある講演においでくださり
久しぶりのツーショット



2016/7/21



「ジジ…カンカン〇□△?ゴニョゴニョ」

踏み切りのある所で🚶🏻を見に行きたいらしい
シンガポールの保育園に通っている影響で
日本語、中国語、英語、それぞれらしき…
ごちゃ混ぜの片言
その片言で65歳年上のジジを道具に使う
まだ2歳にならないジョー

そんな孫との東の間の逢瀬も過ぎ
気がつけば梅雨が去り夏空

「吾輩はZIZIに作られたばかりのネコ」

「🐱🐱にゃー」
暑すぎて、枝豆も育たない
仕方がないから
いつものタンカーマティニー



2016/7/17

山口の学びの場に向かう
京都で乗った「のぞみ31号」は
新山口に停まらないため
新神戸で「さくら561号」に乗り換え

17分の乗り換え時間
山並みせまる
昼下がりのホームでポーッ

布引ハープ園山頂と麓を結ぶ
ロープウェイが
蝉時雨の木立の中を
気だるそうに回っている

九州新幹線上りと下りが
新神戸ですれ違ふ

湯田温泉駅に着いたら
白狐が出迎え



2016/7/10

行住座臥すべてに作業療法の理(ことわり)
気づか、気づかないかで道は大きく異なる。
作業をもちいる療法の言語化の集大成ともいえる
原稿の執筆を終える

校正の見直し、前後の整合性など残る作業に向い
脳のクールダウンに、宝泉院で座する
樹齢700年の五葉の松と対座し
心を澄まし、身体を澄ます

蹲(つばい)の水音だけが
風にのり
カタツムリがゆっくりと歩を進める



2016/7/3

Pagongがシルク地に
手描き友禅技法で
大好きな若冲を
アロハにした

いいなど
一緒に散歩に出て
一歩きして帰ったら
お帰りなさい
一息どうぞって

どこから来たのか
フチコさんが
ドライマティーニのグラスから
声をかけてきた

梅雨花はもう終わりを告げ
向日葵が夏はもうすぐと
昨日の夕方のできごと



2016/7/1

I'm too happy.
transport of joy.
そんななごこちをもつ
山梔子(クチナシ)の花の
甘い香りが...
小雨混じりの散歩道に

もう一年の半が過ぎた
名越の袂の水無月
茅の輪くり
厄落としをしようかな
そんなことを思う歳になった

歳を重ねると時間が短くなる
ジャンーの法則と言えばそれ
までだが
主観的な時の流れは
年齢に反比例するという
そう言われてもね



2016/6/29

心優しき緑の指から
加賀の月と梟の椅子と一緒に届いた
ペランダ園芸の時の蚊取り線香
使い染めてみました

蚊取り線香は
昔懐かしい
ヨクキク キンチョウコウ

川原の多肉植物で雑草盆栽
紫煙のゆっくゆらぎ
蚊取り線香の香りに
御一緒しようかと
ドライマティーニが腰を下ろした

至福 至福



2016/6/28

梅雨の晴れ間？
いや、梅雨の隙間に
なぜだか
しばらく見ていない日本海
見たくなって

伊根の舟屋に一走り
カモに迎えられ
潮のおいと風に包まれ
つかの間の
セルフスピリチュアルケア



2016/6/24

激しい大地の呻き
どうしたものかと思う間に
粟花落(つり)さん

粟花落の雨が
揺れた大地を押し流す
なす術もなくたずむ人々

ひとの戸 悪いに
梅雨の中休み
三室戸の寺の庭には
大地の呻きも激しい雨風も
素知らぬように
紫陽花の宴

心優しき緑の指から
加賀の月と
梟の椅子が届いた



2016/6/19

「ひと・みどりを学ぶ会」学びの日の朝
会場準備に
少し早めに出て
Shinshin-doでモーニング
全粒粉のトーストサンド

御池通りは
色とりどりの紫陽花
鴨川の岸で鴨たちも朝の散歩
さあ、二日の研修が始まる



2016/6/15

水嵩の増した宇治川の淀み
アメンボが
スーイ
あちこちに紫陽花

梅雨の晴れ間の散歩
抹茶ソフトと焙じ茶ソフト
宇治の御茶屋に新茶の香り

カミナリさんも
へそ取り忘れて一休み
あれっ
またボツリ



2016/6/12

雨空の
雲間をとおして
風が一吹き

紫陽花の
花色映す酒蔵の水路
十石舟も一休み

こんな日は
陽が落ちるのも早いから
京阪高架下の
大中特製ラーメン

キリンラガー
麺硬め
スープンコッ
ネギ モヤシ 多め
温玉
キムチ載せ

ああ 今日もダイエツ反省



49

2016/6/7

孫が帰り
寂しさの静寂が戻ってきた
今日は雨
ライフワークの

臨床の言語化作業で一日
夕暮れ時
脳のクールダウンに
一人飲み
タンカレ10に
ノイリー・ブラッドライベルモット
そしてフフフ
シチリアのグリーンオリーブ一つ



50

2016/6/5

昨日は、シンガポール在住の次男一家が仕事で帰国し、孫の丈がやって来た。
また、頭の薄くなった髪をむしられたり、すっかりジジの一日。
四月にリニューアルオープンした京都鉄道博物館、デコイチや初代新幹線こだまなど実物展示、広いジオラマ館などに、子どもをだしに夢中になっている親と迷子になって親を探す子どもたち。子ども連れと鉄男や鉄子で一杯！



2016/5/29

今日は「ひとと作業・生活」研究会のホームページの工事をすこしと期限が迫る原稿の校正、ライフパートナーの認定試験の校正。頭のクールダウンと運動不足の解消に酒蔵の待ちまでウォーキング。15000歩。
酒蔵の町も
紫陽花の季節
十石舟が行き交う...
梅の実が
ホワイトリカー風呂に入りたいと言う
季節はもう夏に



2016/5/20

なんだか変だな
地球が怒っているような
30度近い今日の日照り
明日は今日より暑くなるという

なんだかなあ
こんな暑い日
陽が落ちると
心も身体もクールダウン
したくなる

タンカレー10
暑さのせいで衝動買い
暑さでだれた身体を
ストレートでシャキッ

シャキッの後は
すり寄ってきた
ノリリー・プラットのベルモット
あ〜あ
ドライマティニーが
昼間の日照りを
夕べの日照りに
フフの時間



2016/5/19

ギラギラと照る
真っ青な宙を
飛行機雲が斬る

宙の青を映して流れる鴨川に
日照る手足をそっとつけ
川風にポーッ

あれっ！
水遊びに夢中になって
履くのを忘れたのかな？
赤い小さな雨靴

こんな日は
なんだか嬉しくて
いつものハイボールバー



2016/5/11

雨上がり
河辺の草花たちが
賑やかに

「ねえねえ」と寄りかかったり
バゲで絡み合ったり
一人黄昏ていたり

雨あがりの河辺を



2016/5/1

認知症の母に会いに島根に帰省
「まあ、よ一帰ったねえ」と
今回は思い出してくれた

母は今、小学校の時代を生きているのか
「今日は学校に行かんでえんかね」
「国語の宿題しとらんけーね」と言う

故郷の山々は
そんな母の思い出を包み込んで
春を迎えていた



2016/4/25

東山三十六峰
月輪山の麓
弘法大師が天長の時代(824~834年)に
草庵を結んで始まった泉涌寺

大地と自然の軋みに
宗教観を超えて
その鎮まりを祈る

何事もなかったように
木々は芽吹き
大地の静かな命が芽吹く

私もその中にある

なす術の有無に惑わされることなく
大地と生命の営みは
変わりつつ
変わらずくりかえされる



2016/4/22

スッキリと
飛行機雲に切り取られ
三条大橋見上げれば
もう春にもグッバイ

オオデマリが初夏の色
鴨川浴いは川床の設えが始まった



2016/4/20

大地の軋み
エネルギー放出は終わったのだろうか
大地に生きる命の揺らぎがあろうとも
季節はいつものように移る

春から初夏へ
山々の緑が萌え
風薫り
花筏がほころび
梅の実が膨らむ

大地の軋みの聲を聞きながら
鎮まりを祈る



2016/4/10

無残
折(られ?、れ?)た桜
直径7.8cmはある枝が
可愛そうにボキリ
多くの観光客が
訪れてくださるのは歓迎するが
文化の違いなのだろうか
木に登って揺すらす花吹雪をつくる

レンタル着物で
桜の枝を折って自撮り
祇園の通り
嵐山の桜並木
賀茂川
ウェディングドレスのカップル
カメラマンの指示に従って
ポーズの連続
CMの撮影かと思えば
結婚記念のアルバムづくり
お国からカメラマン同伴で
なん組も



2016/4/7

大学病院精神科の院庭の大銀杏
患者さんと散歩で拾った10粒
研究室の鉢に植え
7粒が芽を出した
昨年の退官時に...
自宅に連れて帰った
実生18年
今年も新しい息吹きが
小指の先ほどもないのに
一人前の銀杏の葉の形



61

2016/4/5

昨年晩秋
高知の友から頂いた新生姜
リキュールに仕込んで四ヶ月
桜満開の時に仕上がり
引き上げた生姜は...
ザックリと佃煮
酒をしっかり含んだ
生姜の佃煮を着に
生姜酒で花見
器は赤水簸蕎麦窯変小鉢自作



62

2016/4/4

江戸時代 京の町と大阪を結んだ
淀川水運三十石船

今は桜から新緑、紅葉の季節に
酒蔵を臨む水路を
十石舟が遊覧

今年も桜の季節になり
花雲りの水路に
川舟が
水面に映る桜と酒蔵の上を



2016/4/1

命を救う治療医学
命の贈り物はありがたくもあり
戸惑いもある
贈られた命をだれが活かすか

華やかではないが
その道を歩く若人たちに
迎えるエールをおくるために
青梅に来ました

コブシの花 山ツツジ 山桜 寒椿
里山は冬の名残と春が一緒にあった



2016/3/29

花冷えの空に
気の早い入道雲の子ども？
のような雲が
おーい雲よ

の道端に
カラスノエンドウが
笑っていた
本当の名前は
矢筈豌豆(やはずえんどう)

小さな恋人たち
きつと来る幸せ
そんな花言葉がよく似合う

この時期
新芽と花はお浸しに
実がなり始めたら
若いうちにはキヌサヤの代わりに
ああ、可愛くてとても摘み取れない



2016/3/27

川辺、里山、野の小道
静かに可憐に咲く君に
誰がつけたか
オオイヌノフグリ
なんという無粋な

瑠璃唐草とか星の瞳という
名前をもち
花言葉は、信頼、清らか

誰がどう名付けようと
君は君
その静かな命の営みに
気づいてそっと見つめる人がいる



2016/3/21

春分の日
春を待ちわびて
里山や川沿いの野の花散策

白木蓮が空に開き...
緋紅や白と紅斑の木瓜
山桜が咲き
ソメイヨシノはまだ蕾
垂れ柳が緩む風に揺れ

振り向けばもう春
振り向きたいのを
じっと堪えて
春が来ましたよと言うのを待つ

何十年も昔
淡い思いを抱いて待たのように
振り向きたい気持ちを
抑えて春を待つ



2016/3/18

ああ、あれは九ヶ月前
梅雨の晴れ間に訪れた宝泉院
あの水琴窟の庭にあった三又は？
もう花の季節
そうだ

三又の花を見ようと大原に
三又の花は咲いていた
淡く柔らかな白無垢の衿裏に
黄や紅の裏地がそっと忍ばせてあるような
はんなりとした色香を漂わせ

樹齢七百年の五葉の松は
時の流れを越えてただ静かに佇む

一幅の日本画のような静けさの中
微かな三又の花の香りと
水琴窟の音
お点前をいただき
しばし時を忘れる



2016/3/16

二月は逃げる
三月は去る
とはよく言ったもの
春はまだかと思っていたら
もう、桃の節句も終わり...
年が明けて三月の半ば

いつの間にか
ユリカモメは北に帰り
ヒドリガモが春を待ちわびていた

春をうかがう
垂れ柳と桜の蕾
幼子が河辺で跳ね
修学旅行の女の子が
賀茂の川の千鳥石を飛ぶ
河岸の菜の花が
「もうすぐよ」と言った



2016/3/9

三寒四温
寒暖の差の激しさに
追いつかない身体の調えも
まるで知らぬが半兵衛
...季節は
日に日に春に向かう
京の北の山々は
墨絵のように霞に重なり
賀茂の河原に菜の花が開き
若人らは
川面を見つめて電線雀並び
赤い前垂れ
だれがねごうた？なにねごうた？



70

2016/3/7

啓蟄の一日
淡路島の里山で
静かな命の力を借りて
共に暮らす
共生(ともいき)の話を
する
豊かな時間を頂いた

阪神淡路大震災を機に
人びとが自然と生きる
そのはじまりの場をと
創られた学びの場

町からの人工の音は木々に吸いとられ
風と鶯の鳴き交わし
大地の中では
虫たちが目を覚ましたのだろうか？
一晩 里山で泊まり
翌朝 島の港から船に乗る
まだ少し冷たい潮風に
柔らかなペールを羽織ったように

春の暖かい風が香る
春の瀬戸の波に心地よく揺られ
明石の港に着く
魚の棚の市場で
蛸が踊っていた



2016/3/4

回復の兆しか
まだ明けやらぬ
春を待つじまのなかの目覚め

蝋燭の仄かな暖かさと
部屋の中で静に過ごしている多肉
いつものように
身体に大気を取りこむ
ゆっくり深く静かに
吸って吐いて
繰り返す体内の換気が
気を甦らせる

多肉の艶やかさが
命の泉のよう
長い冬眠だった



2016/3/3

まだ頂き物のインフルエンザ
その後片付けが後少し
これまでになく
あまりに多く頂いたので
もう一日二日かかるのかな？

インフルエンザに
お付き合いしているあいだに
春が早足でやって来ていた
毎年この季節になると
ジョージウインストンの
Winter into Spring
春を迎えるためにこのピアノを聞くのが
いつの間にか

少し熱も引いたので
今日は今年の聞き始めにしよう
そしてインフルエンザに別れを

朝の空気がゆっくりと身体に入ってくる
少し体内で温まった空気が
静かに身体から出ていく
ゆっくりと繰り返す大気の出入りに
ああ 生きているっていいな



2016/3/2

頂き物は 何かなというワクワク感があるけど
今回の頂き物は嬉しくないインフルエンザ
微熱と関節痛が始まって8日
検査で陰性
様子見にもらった風邪薬の効果なく
再検査でインフルエンザ感染判明

時すでに遅く
インフルエンザ軍我が心身全土攻略
うーん検査で陰性 トロイの木馬作戦か
判明後5日39度の発熱と全身の筋肉痛
もう敵の勢力が途絶えるのを待つしかない

二日前から痛む身体に鞭打って
パソコンメールを一日一回確認

.....
「これ、いつつまでよろしく」
「もうすぐ期限です」
「お忙しいと思いますが——」
.....

あつからかんとした催促督促が押し寄せている

えーい！そこにならえ
みんな揃って打ち首じゃと言う力もなく
艶っぽい多肉を見ながら
届いたばかりのWayne Shorterの
ミステリアスな哲学的な香りのする
テナーサックスに耳を傾ける
フワフワと



2016/2/21

教えて育てることはしないけど、育ち方を教えると、共に学んだ若人が、巣立ち育つ。そんな一人に、不器用で少年のようにまっすぐな男がいた。明日が結婚という前の日に、彼の学びの時間を思い出しながら、一人散歩通りの造り酒屋のbarに立ち寄った。

酒蔵の中にあるBar
酒蔵の戸をぐる
甘い新酒の香りが鼻孔を擦る

Barのカウンター越しに
ガラス窓から仕込み蔵が並ぶ
小さな手造り蔵
銘柄は蒼空一つ

純米生酒美山錦は絞りたて
純米吟醸酒雄町は試験醸造絞りたて
純米大吟醸酒山田錦は定番
純米酒美山錦おりがらみは新酒
鴨のスマークと相性がいい

ほんまに不器用なまっすぐな男や
それをわかってくれる
菩薩の手のような女性がいて
よかったよかったと
一人飲む



2016/2/19

朝
目が覚める

しばらく
ゆっくりと息を吸っては...
朝の空気が身体に入っていく
身体から少し暖かい呼気が出ていく

大気が自然に出入りするように
からだのアライメントを整える
その身体の澄ましが
身体を調え心を調える



2016/2/6

本日、立春を迎える如月初午の日
奈良時代和銅4年
農の神宇迦之御魂(うかのみたま)が
伊奈利山に降臨したという

この日は老いも若きも
男も女も
今昔物語、枕草子の時代から
みんな揃って稲荷詣でをしたという
さてさて、それではと
ZIZIも初午稲荷詣で
商売繁盛！五穀豊穡！

おきつねさんの好物油揚げ
きつねうどんにおいなりさんいただいて
諸国の言葉と自撮カメラの雑踏を避け
今日は稲荷の裏参道
人気もない妖しい匂いの谷道散策

怪しやな、妖しやな
ひっそり佇むおキツネコンコン
赤い前垂れ
だれがねごうた？なにねごた？



2016/2/3

陶芸粘土の手びねり遊び
千支の申をとのご希望
節分の日にまにあった
母子ザルができました...
それではと
昨年虎のパンツをはかせた鬼と
ツーショット
鬼も内
福も内



2016/2/1

大寒の折り返し
寒の緩みに
緋寒桜が蕾を開いた
例年より一月ほど早い

寒の戻りに
開いた蕾は耐えられるのだろうか？

千年の悠久の時の流れ
平等院鳳凰堂の阿弥陀如来は
なに見てきたのか？

緋寒桜も阿弥陀如来も
ただ静かに時の流れに
身を委ねて月日を重ねる
あらしい年ももう二月



2016/1/26

いつものように
4時半に目覚め

朝の珈琲をいれる間に
能の稼働準備が
気がつけば7時前
空が白み

京都市内は今日は冬晴れ差
零下6度の冷え込み



80

2016/1/23

凍れる大寒の折り返し
神戸で仕事
丑年の丑の月の生まれ
しっかり働いた自分へのご褒美
神戸和の牛食したく
ふらりと吉祥吉本店

神戸牛特選赤身
ミディアムレア二百
神戸ワイン
麒麟一番搾りがチェイサー
フッフ フッフ
和の牛には山葵が一番

ひとり静かに
自分へのご褒美の日



2016/1/21

小正月も過ぎ
新年の行事が終わり
今日は大寒
福招きの役を果たし
招き猫も一息

春を待つ
川鶺とゴイサギが
シンシンと音もなく流れる
寒の折り返しの川面を見つめていた
今夜は雪見酒か



82

2016/1/18

ロウバイの微かな香りがキリリとした寒風に運ばれてきた日曜の午後、注文の本が届いた。東京都指定通所介護「デイステーション涼風」を立ち上げられている石井晴美さんの書かれた本である。同感！同感！と頷きながら読み、あらためて作業療法の現状に対して、淡い期待と大きな不安が入り交った複雑な思いになった。作業療法士が作業を使っていない、使えていない。身障領域では理学療法士と同じようなことを上肢にしている。精神領域では趣味的な手工芸とシクと称する活動ばかり。作業だけでなく、生活の意味を忘れた作業療法士ばかり目にするようになった。人数が増えたので、石井さんのようにきちんと作業療法をしている作業療法士も増えてはいるのだろうが、それ以上に、作業を用いる関わりの大切さが目が向けられるようになったのに、作業の力を忘れた作業療法士があまりにも多い！... 10数年前の日本作業療法学会の講演で「作業療法の知識や技術はますます必要とされるが、作業療法士は淘汰される時代」と発言して、作業療法士がそのようなことを言うてはよくないとお叱りをいただいたが、今、まさにその通りになっている。



2016/1/15

今日はこのプロペラ機で松山に
晴れた冬の空を飛ぶ
人はいつまで
飛行機という道具を使って
移動できるだろう...
飛行機に乗るたびに思う

限りある地球の資源を消費する
いずれ
地産地消の暮らしに戻るだろう



この島と雲の上を飛んで
松山に着いた



2016/1/13

デスクワークが続くと、思考優位になったり、思考が停滞。そんなときには、散策。
一月十二日、伏見稲荷大社に山入り。約二時間半一万歩の心身の調え

全国三万社お稲荷さん総本宮
五穀豊穰、商売繁盛
庶民信仰の宮

楼門からまずは本殿
二礼二拍一礼

興宮を過ぎれば千本鳥居
実数一万を超える朱い鳥居
ぐれば
非日常の空間

千本鳥居の終点
命婦谷奥社奉拝所
おきつねの絵馬に願掛け
参拝の多くはここまで

稲荷山山入り
異界の入口はここから
さらに鳥居をぐり
四ツ辻へ
足元に広がる洛中洛南
茶店で一服

稲荷山山頂一の峯
二の峯
三の峯
眼力社とお山をぐるり巡って
四ツ辻に戻る



2016/1/8

ふれる
そっと
しずかに
ふれてみる
それは
少し固さともなう
かもしれない
はじまりはいつもそう
かかわりは
ふれて始まる
まなざしでふれ
言葉でふれ
手でふれる
そして
確かな望みをもって
そっと
やさしく
しっかりと
ふれる
七草粥で身心を整え
新しい年の仕事のはじまり
新しいかかわりは
いつも
互いの思い込みのズシのなかで始まる
そのズシを受けとめて
相手のあるがまを受け入れることで
本当のかかわりが生まれる
今年はどうな出会いが始まるのだろう



ユリカモメ、整列して発艦前の戦闘機のように

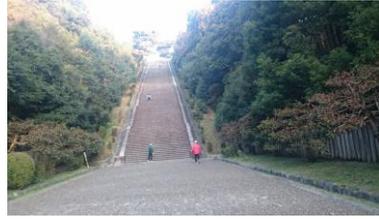


2016/1/4

年末につくった苔盆栽
新しい朝に
しっかり根をはりました

御陵の230段の石段踏みしめ
二礼二拍一礼
折り返して望む降りる230段

さあ、転ばぬように
ゆるりと行きましょうか



登り230段の参道を一步一步



折り返しの230段、ゆるりと転ばぬようにまいりましょう

2016/1/1

2016年、明けましておめでとうございます！
Be good, Do good!
あるがままに！
皆さま、今年も一年よろしくお願いたします！

